

平成14年10月18日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

第11回ペスタロッチー教育賞表彰式について

このことについて、別紙のとおり送信いたしますので、取材をお願いします。
なお、今回の授賞者は下記の方です。

記

受賞団体 [社会福祉法人 似島学園](#)

【お問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科教授 坂越

TEL:(0824)24-6731

広島大学教育学部庶務係

TEL:(0824)24-6707

[発信枚数;A4版 5枚(本票含む)]

- [表彰式プログラム](#)
- [表彰式・講演会案内](#)
- [ペスタロッチー教育賞とは?](#)

第11回ペスタロッチェ教育賞表彰式

日時 平成14年11月15日(金)13:00～14:30
場所 広島大学教育学部K102講義室
〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号
TEL (0824)24-6707 FAX (0824)22-7171

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチェ教育賞実行委員会委員長
広島大学長 牟田泰三
広島大学大学院教育学研究科長 中原忠男
- 3 祝辞
(財)広島地域社会研究センター理事長 篠原康次郎
- 4 ペスタロッチェ教育賞贈呈
受賞団体 社会福祉法人 似島学園
- 5 記念品贈呈
中国新聞社
- 6 受賞の辞並びに記念講演
社会福祉法人 似島学園理事長
児童養護施設似島学園長 小野寺 茂
- 7 閉会の辞

第11回ペスタロッシー教育賞表彰式・記念講演会

受賞団体 社会福祉法人 似島学園
日 時 平成14年11月15日(金)13:00～
13:00～13:30 表 彰 式
13:30～14:30 受賞の辞並びに記念講演
社会福祉法人 似島学園理事長
児童養護施設似島学園長
小野寺 茂

場 所 広島大学教育学部K102講義室
〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号

主 催 広島大学大学院教育学研究科
ペスタロッシー教育賞実行委員会

後 援 (財)広島地域社会研究センター
中国新聞社

(問合せ先)

広島大学大学院教育学研究科 ダイヤルイン(0824)24-6731(坂越)
広島大学教育学部事務室 ダイヤルイン(0824)24-6707(庶務係)

ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー

JOHANN HEINRICH PESTALOZZI

スイスの教育家・教育思想家。1746年、チューリッヒに生まれる。チューリッヒの大学に学び、そこでルソーその他の革新的な啓蒙思想に触れ、政治の改革を求める学生組織「愛国者団」に入る。その後、農業を志し、アンナ・シュルテスと結婚、農業経営のかたわら、貧児・孤児の教育事業に着手する。1781年、教育小説『リーンハルトとゲルトルート』を發表し、絶讃を博す。シュタットでの孤児救済の活動を経て、1800年ブルクドルフ、1804年、イヴェルドンに学園を開く。『メーデの精神と心情』『ゲルトルート教育法』など、多くの著書を刊行する。学園は、多くの国々から参観の人々が集まり、教育実践研究のセンターとなって、ヨーロッパ、アメリカにペスタロッチー運動が広がる。1825年、弟子たちの内紛から、学園を閉鎖してノイホーフに退き、1827年、ブルックにおいて没す。82歳。

ペスタロッチー墓碑銘

ハインリヒ・ペスタロッチーここに眠る。

1746年1月12日チューリッヒに生れ、1827年2月17日ブルックに没す。

ノイホーフにおいては貧しき者の救助者。

「リーンハルトとゲルトルート」の中では人民に説き教えし人。

シュタットにおいては孤児の父。

ブルクドルフとミュンヘンブーフゼーにおいては国民学校の創設者。

イヴェルドンにおいては人類の教育者。

人間！ 基督者！ 市民！

すべてを他人のためにし、

己には何物も。

恵みあれ彼が名に！

ペスタロッチーとペスタロッチー教育賞

広島大学大学院教育学研究科は、財団法人広島地域社会研究センターならびに中国新聞社の後援を受け、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践をおこなっている個人あるいは団体を顕彰するため、先のペスタロッチー賞の精神を継承し、ここにペスタロッチー教育賞を創設した。その趣意として、以下のことが挙げられる。

教育の荒廃が叫ばれる中、優れた教育を地道に実践し、「真教育」の原点を示している実践家を顕彰にすることは、これらの人々を勇気づけると共に、その活動を社会に広め、活性化させるために、極めて重要なことである。この賞は、混迷する教育の現実に対して、教育の原点を示し、我が国教育の立ち直りのきっかけにしようとするものである。その象徴としてペスタロッチーの名が称えられよう。ペスタロッチーは民衆教育の父であり、教育の実践家として、子どもへの限らない愛情と慈しみを身をもって示した教育者であった。同時に、多くの困難を克服しておこなわれた教育実践から編み出された教育思想・教育理論は、単に18、19世紀の所産としてではなく、常に「真教育」の象徴となり、今日に至るまで世界の教育を動かし、教育の原点を示すものと考えられている。とりわけ、本学部には、大正10年以來の、ペスタロッチー研究および運動に関する長い伝統があることも忘れてはならない。

ペスタロッチーの実践・思想・理論には、今日の教育荒廃を克服するための方途を示す力があると確信される。ペスタロッチーの精神を教育の原点として捉え、優れた教育を実践している人々を顕彰することは、正に今日の教育にとって「地の塩」となろう。

<付記>

第1回受賞者	宮 城 まり子	ねむの木養護学校校長
第2回受賞者	谷 昌 恒	北海道家庭学校校長
第3回受賞者	児 玉 三 夫	明星学苑理事長、明星大学校、明星小学校長
第4回受賞者	山 田 洋 次	映画監督
第5回受賞者	NHK名古屋放送局「中学生日記」制作スタッフ	
第6回受賞者	本 吉 修 二	学校法人白根開善学校校長
第7回受賞者	黒 柳 徹 子	ユニセフ親善大使
第8回受賞者	社会福祉法人	広島新生学園
第9回受賞者	丸 木 政 臣	和光学園学園長
第10回受賞者	佐 野 浅 夫	俳優

ペスタロッチー教育賞受賞者紹介

社会福祉法人 似島学園

似島学園は、昭和21年9月、原爆で家族を失った孤児や種々の事情によって浮浪孤児となった児童を收容、保護し、彼らを心身ともに健康で明るく文化的な社会人として育成することを目的として開設された。当時、市内にたむろする子どもたちの惨状を目の当りにした故森芳麿氏（初代学園長）や故吉川豊氏（第二 代学園長）が、広島県や広島市に強く訴えかけ、旧陸軍施設跡地を借り受けて34人の児童を保護したのが始まりである。

戦後の窮迫した状況のなかで、不十分な建物施設の整備、食糧の確保、そして逃げ出す子どもの保護等、職員の献身的な努力と子どもたちへの愛情によって学園が維持されたことは特筆されるべきことである。園内の整地、農場開墾、地引き網、海水からの製塩、考えられる限りの努力を重ねる学園長ほか職員の姿に、子どもたちも次第に落ち着き、ともに作業に汗するようになっていった。昭和23年、児童養護施設としての認可を受け、当初、似島小学校分教場として併設されていた小学校も、昭和25年、広島市立似島学園小・中学校として独立、園内学校として整備されたことにより、児童の福祉、教育と公的な教育とが両輪となって複合的特質を有した児童育成施設として成果をあげてきた。昭和27年、社会福祉法人として認可された後、児童養護施設のみならず知的障害児施設（高等教養部、昭和41年）、知的障害者福祉ホーム（のぞみの家、昭和56年）、知的障害者通所寮（有終寮、昭和57年）、知的障害者グループホーム（ホーム似島、平成10年）を併設し、児童福祉、障害児教育及び社会福祉を総合的に組み合わせた先駆的教育・福祉活動を展開している。開園以来の保護児童数はのべ3,100人にのぼり、現在も100人余りの児童、青少年が在園している。

学園の活動は、当初の戦災孤児の保護から経済成長時代の裏面で困難な状況に陥った子どもたちの救護、さらに社会や家庭のゆがみ、保護者による虐待に苦しむ子どもたちの養護へ、また知的障害者の自立支援と社会参加をめざす活動へと変遷しているが、子どもたちの一人ひとりを大切に、自発活動を自己向上を支援するという理念は揺らいでいない。学園の園訓「明るく元気に」、指標「働いて考え、考えて働く」、「生活教育(知)と人間教育(情)と労作教育(意)」は、まさにペスタロッチーの教育精神にほかならない。また、今回のペスタロッチー教育賞への推薦が地元住民有志であることも、学園が地域社会に受け入れられ、その成果が評価されていることを示している。開設当初の困難は、シュタンツ孤児院から逃げ出した子どもを捜すペスタロッチーの姿を彷彿とさせるが、シュタンツとの相違はこの点にあるとあってよいであろう。

似島学園の歩みは、戦後から現在に至るまで困難な状況におかれた子どもたちに 向き合い、揺るぎない信念を持って真摯な実践を積み重ねてきたものである。ここにペスタロッチーの精神と教育の原点が体現されている。似島学園の長年にわたる多大な功績に対し、第11回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。